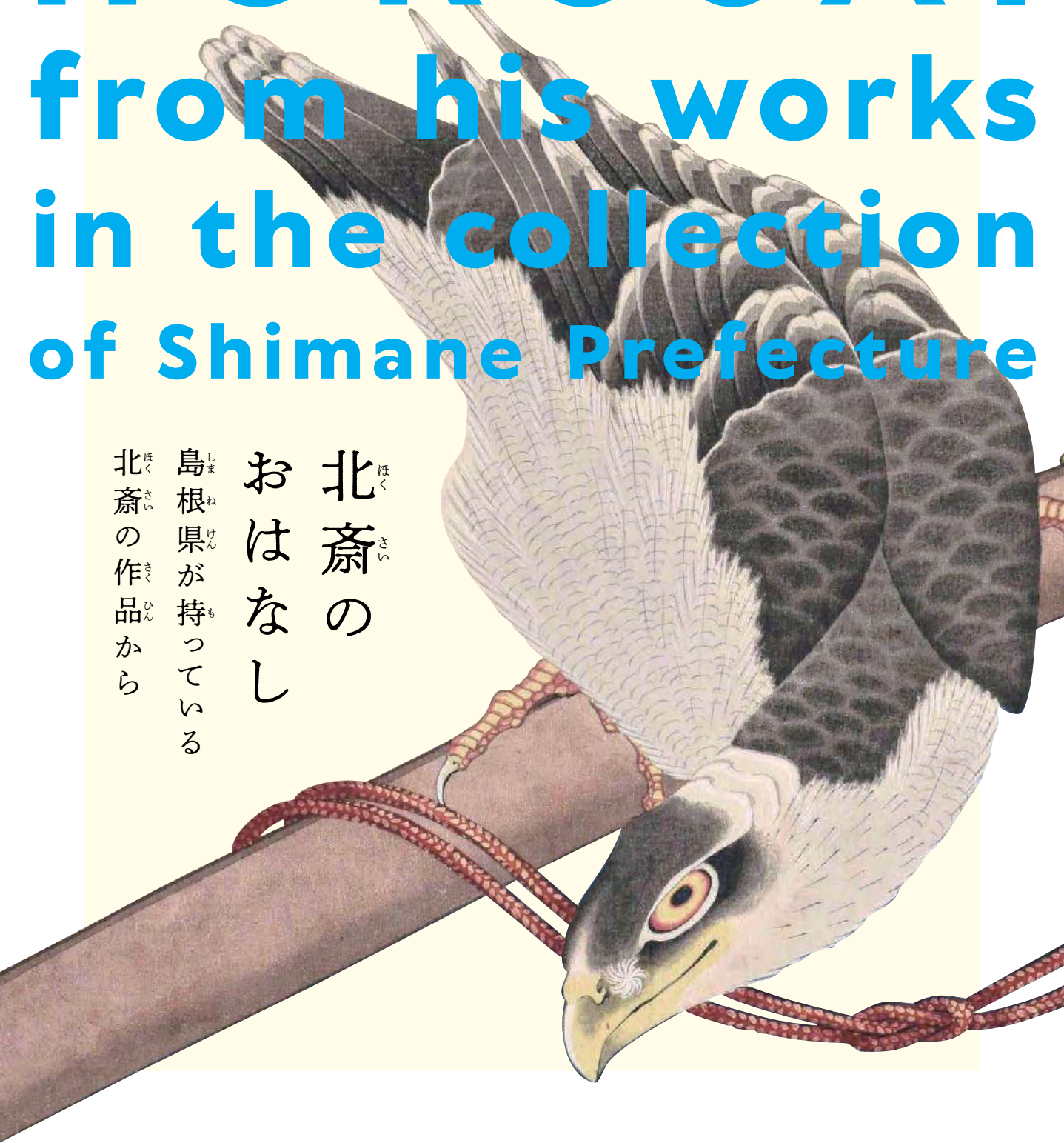


THE STORY of HOKUSAI from his works in the collection of Shimane Prefecture

北齋の作品から
島根県が持っている
北齋のおはなし





《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》

The series Thirty-six views of Mt.Fuji: Under the wave off Kanagawa



《富嶽三十六景 凱風快晴》

The series Thirty-six views of Mt.Fuji: South wind, clear sky

H O K U S A I

みなさんは、この2つの絵を見たことがありますか？江戸時代の葛飾北斎という画家がえがいた作品です。この「北斎」の名前は、世界中で知られています。アメリカの有名な雑誌『LIFE』(ライフ)の特集「この1000年で偉大な仕事をした人物100人」(1999年)で、日本人でただ1人選ばれたのが、「北斎(Hokusai)」でした。

実は、みなさんが住んでいる島根県は、北斎の作品を約2,000点も持っています。それも、とても有名な作品、世界で1点しかないめずらしい作品もたくさんあります。

どうして、そんなにたくさんの北斎の作品が島根県にあるのでしょうか？—その理由は最後にお話するとして、この世界中で有名な北斎とはどんな人生を歩み、どんな絵をえがいたのか、島根県が持っている北斎の作品からごしょうかいしましょう。



U S A I

Here are two works you may have seen before, both by the Edo-period artist Katsushika Hokusai. The name Hokusai is familiar around the world. In fact, in 1999, renowned US magazine *Life* included Hokusai as the only Japanese person selected for its special feature “The 100 Most Important Events and People of the Past 1,000 Years” of “The Life Millennium.”

Shimane Prefecture actually owns around 2000 works by Hokusai, including many that are very famous as well as rare works found nowhere else.

You may be wondering why Shimane Prefecture has such a large collection of Hokusai’s work. A good question, to which we shall return later. In the meantime, let us take a look at the life of this Japanese artist of global renown and the sort of pictures he made, by introducing a few of his works here in Shimane.



2035!

まろ

いろいろな
テーマに
チャレンジ!

北斎は1760年に江戸(今の東京都)で生まれました。6才*のころから絵をえがくのが好きで、19才の時、勝川春章という画家の弟子となります。翌年の20才の時、北斎は早くも画家としてデビューしました。この20才から35才ころまで、北斎は「春朗」と名のついていました。この「春朗」を名のった約15年の間、北斎はさまざまなテーマの作品をえがきました。かぶきの役者さん、きれいな女性たち、おすもうの力士、歴史上のヒーロー、江戸の人気スポット、さらにはおもちゃまで、さまざまなテーマの絵にチャレンジしています。

*このガイドでの北斎の年齢は満年齢ではなく「数え年」です。数え年は生まれた年から「1才」と考えます。

AGE 20-35

Master of many themes

Hokusai was born in 1760 in Edo (modern-day Tokyo). His love of drawing and painting emerged at around the age of six, and at nineteen he was apprenticed to Katsukawa Shunshō, a painter and printmaker. The young Hokusai swiftly made his debut as an artist in his own right the following year, at just twenty. From the age of twenty to thirty-five, he went by the name Shunrō. During these fifteen years, he produced works on various themes, including kabuki actors, beautiful women, sumo wrestlers, heroes from history, popular spots in Edo, and even toys.



1 版

《四代目岩井半四郎 かしく》

Iwai Hanshirō IV as Kashiku

北斎が20才の時にえがいたデビュー作。かぶきの役者さんの姿です。



2 版

《新板おどりあづくし》

Newly published pictures of dances

いろいろな種類のおどりがえがかれた、おもちゃの絵。他にはないめずらしい作品です。



3

《鍾馗図》

Shōki, the demon queller

これは版画ではなく筆でえがかれています。筆でえがかれた作品で「春朗」のサインがあるのは世界でこれ1点だけです。



この絵ってどうやってできているとおもいますか？

実は、左の1と2の絵は、線も色も文字も全て、図工で習う「木版画」で表されています。線を表す板と色を表す何枚かの板を、ずれないように、すり重ねて完成しています。これから出てくる 版 のマークがある作品は全て木版画です。



36 44

活やく
版画で
ごうかな

オモろ

北斎が36歳の時、それまで名のっていた春朗から「宗理」と名前を変えて、自分だけの表現を目指すようになります。このころの北斎が活やくしたのが、ごうかな「摺物」という分野でした。摺物は今の年賀状や案内状、カレンダーやグリーティングカードのようなもの。裕福な商人たちがお金を出して特別に作らせたもので、高価な絵の具や紙が使われました。北斎はこの摺物をたくさんえがき、その上品な作風で人気が高まりました。

AGE 36-44

Maker of luxury prints

At the age of thirty-six, Hokusai changed his name from Shunrō to Sōri, and started to aim for a more original personal style. During this period, his career was dominated by the production of luxurious prints called *surimono*. *Surimono* were similar to today's Japanese New Year cards and invitations, calendars and greeting cards. Commissioned by wealthy merchants, they were made using only the finest pigments and paper, and priced accordingly. Hokusai made many of these *surimono* and acquired a following with his elegant style.



5 版

《曙艸(吉野山花見)》

Akebonogusa: Courtiers admiring the cherry blossoms at Yoshinoyama

桜で有名な奈良県吉野山での花見の行列。色がとてもきれいにのこっています。

津和野藩の「との様」も見ていた
北斎の作品

ここにしようかいている5と6は、江戸時代に津和野藩のとの様が持っていた作品です。200年以上前の版画ですが、今でもおどろくほど色がきれいにのこっています。との様も北斎の作品をながめて、楽しんでいたのですね。



4 版

《亀》

Turtles

北斎が名前を変えたことを友人らに知らせるために作った摺物。島根県にしかない貴重な作品です。



6 版

《玉虫と子安貝》

Buprestids and cowries

玉虫や箱の部分に、銀などの金属に見える高価な色が使われています。



45から50

小説のさし絵で

キャリア

世界中で知られている「葛飾北斎」の名で絵をえがくようになったのは、この時期です。このころの北斎がかつやくしたのが、「読本」の世界。読本とは今でいう長編小説のようなもので、その小説の中の「さし絵」を北斎がたくさんえがきました。その数は生涯でなんと約200冊！当時の人気小説家たちとのコンビで、次々にヒット作を生み出しました。北斎のドラマチックなさし絵を、読者はドキドキワクワクしながら、ながめたのでしょね。

AGE 45-50

Gets his big break illustrating novels

It was around this time that Hokusai began to work under the more familiar name of Katsushika Hokusai. This was the onset of the artist's career in *yomihon*. *Yomihon* were woodblock-printed books similar to what we would call full-length novels, and Hokusai made the illustrations for these books: around 200 over his lifetime. Working with popular novelists of the period, he contributed to a string of best-sellers and readers delighted in his dramatic imagery.

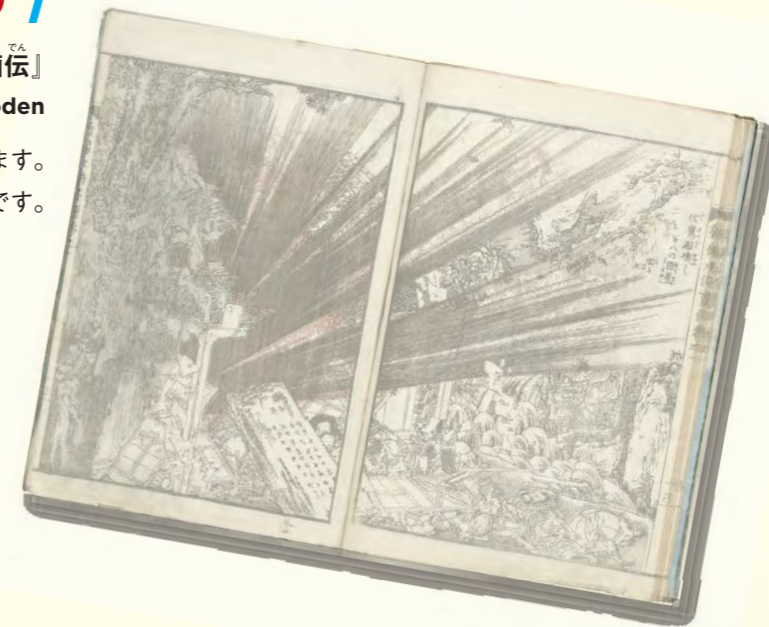


版 7

『新編水滸画伝』

Illustrated new edition of Suikoden

はく力のばく発シーンを、線を使って表しています。今の漫画でも見られる方法です。



8 版

『鎮西八郎為朝外伝 椿説弓張月』

The side story of Chinzei Hachirō Tametomo, Strange tales of the bow moon

江戸時代の大人気小説家・曲亭馬琴とのコンビで大ヒットした作品。

名前を何度も変えた北斎

北斎が「葛飾北斎」と名のつたのは40才代中ごろから50才代中ごろのこと。実は北斎は画家としての名前を次々に変えたことでも有名です。春朗・宗理・北斎・戴斗・為一・画狂老人卍などなど、それまでの自分から脱皮するように、新しい名前と共に新しい分野にチャレンジしました。

9 版

『恋夢艸』

The bridge of dreams

お化けが暗やみから現れたところ。北斎はぶきみなお化けの絵が得意でした。



51才から60才まで 弟子が日本中に 絵のお手本で

おもしろ

画家として有名になった北斎には、たくさんの弟子がいました。また日本全国にも北斎の絵を勉強したい人がたくさんいたようです。そんな人たちのために、北斎は51才ころから、絵を勉強するためのお手本となる「絵手本」をえがくようになります。北斎は亡くなる直前まで、多くの絵手本をえがきましたが、その中でもっとも有名なものが『北斎漫画』です。全部で15編(巻)あり、世界でも「ホクサイ・スケッチ」の名でとても人気があります。

AGE 51-60

Attracts followers across Japan with his drawing manuals

By now a household name in Japan, Hokusai attracted many pupils. Many other people all over the country also wanted to study his work, and for these aspiring artists, from the age of fifty-one, Hokusai began to produce what are known as *edehon*, manuals that included sketches for studying drawing and painting. Hokusai continued producing *edehon* almost right up to his death. The most famous of these books are the *Hokusai Manga*, the fifteen volumes which are known as the "Hokusai Sketches."



(三編) vol.3



(初編) vol.1

(二編) vol.2

10 版

「北斎漫画」

Hokusai sketches



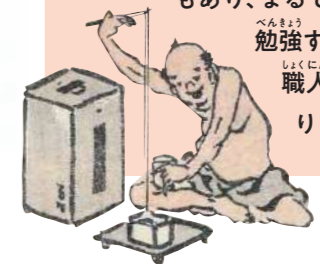
(二編) vol.2



(初編) vol.1

『北斎漫画』だけど漫画ではありません

「漫画」とありますが、ストーリーはありません。いろいろな人の姿、動物や植物、建物や風景などの絵を集めたイラスト集のようなもの。約3,900点もあり、まるで絵の百科辞典です。絵を勉強する時のお手本にされたり、職人さんがデザインに使ったりしました。



61シリーズ 富士山の 世界中で大人気!

おもしろ

世界でもっともよく知られている北斎の作品が《富嶽三十六景》です。「富士山」をテーマとしたシリーズで、タイトルに「三十六」とありますが、全部で46作品もえがかれました。46作品もありますが、さまざまな場所、人々の暮らし、季節や時刻との組み合わせにより、まったく別の富士山がえがき分けられています。150年ほど前からヨーロッパやアメリカでとても人気があり、多くの芸術家に影響をあたえました。

AGE 61-74

Earns international fame with the Mt. Fuji series

Internationally, Hokusai's best-known work is his *Thirty-six Views of Mt. Fuji* series. Though the title says thirty-six, there are in fact forty-six prints in the series. Each depicts a totally different image of Mt. Fuji, by combining the mountain with views from different locations, seasons, times of the day, and scenes from everyday life. Around 150 years ago, the series captured the imagination of people in Europe and North America and inspired many artists in the West.



11



12



13

11 版

《富嶽三十六景 江都駿河町三井見世略図》

The series Thirty-six views of Mt.Fuji: The Mitsui shop at Surugachō in Edo

12 版

《富嶽三十六景 駿州江尻》

The series Thirty-six views of Mt.Fuji: Ejiri in Suruga province

13 版

《富嶽三十六景 東海道品川御殿山ノ不二》

The series Thirty-six views of Mt.Fuji: Gotenyama hill at Shinagawa on the Tōkaidō road



14 版

《富嶽三十六景 神奈川冲浪裏》

The series Thirty-six views of Mt.Fuji: Under the wave off Kanagawa

富士山と大波を、「遠」と「近」、「静」と「動」のように対比的にえがいています。

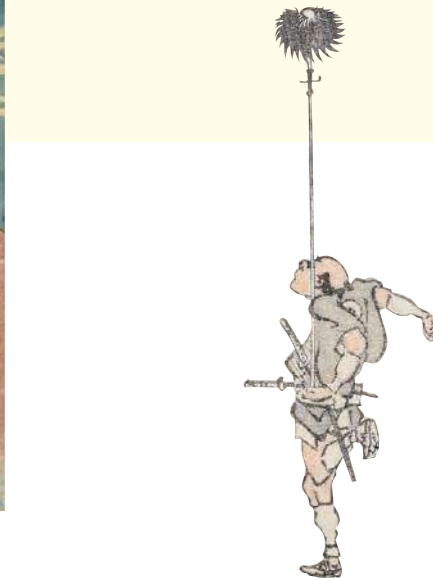


15 版

《富嶽三十六景 凱風快晴》

The series Thirty-six views of Mt.Fuji: South wind, clear sky

「赤富士」と呼ばれる、シリーズの中でも特に人気が高い作品です。



富士山 × 北斎 = 日本のシンボル

日本から外国へ行くために必要なパスポートのデザインに、この《富嶽三十六景》の絵が使われています。デザインされた理由は、世界遺産の富士山がえがかれた、世界でも有名な作品だから。また2024年から発行される新しい1,000円札には14の作品がデザインされます。



75, 90

過去の自分を乗り越えて

オノノ

北斎が75歳の時、これからの自分の画家人生について次のように記しています。「画家として90才で奥意を極め、100才で神の域に達し、100数十才で一筆一筆がまるで生きているような絵をえがいているだろう」と。常に新しい分野にチャレンジしつづけ、過去の自分を乗り越えようとした、北斎らしい言葉です。1849年4月18日、北斎は90才で亡くなります。その亡くなる直前まで、北斎は真の画家となることを願いつづけた、と伝えられています。

AGE 75-90

Surpassing his past personal best

At the age of seventy-five, Hokusai is said to have stated, "As an artist, at ninety I will have penetrated the essential nature of life, at 100 I shall have attained a divine understanding, and from 110 onward, every stroke of the brush will leap off the paper as if alive"—words typical of an artist who never shied away from a challenge and was constantly striving to surpass his previous personal best. On April 18 1849, Hokusai died at the age of ninety. It is said that up to his very final days, he was still expressing his wish to be a "true artist."



16

《文昌星図》

Bunshōsei

北斎が84歳の時に筆でえがいた作品。文昌星は北斗七星の星の一つで、文学の神です。

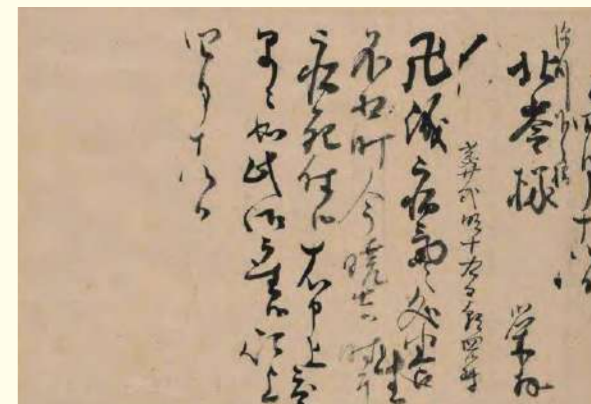


17

《赤壁の曹操図》

Cao Cao before the battle of Chibi

北斎が88歳の時に筆でえがいた作品。中国「三国志」の武将・曹操の姿です。



18

『北岑宛北斎死亡通知』[府川家資料]

Letter written by Oei to inform Hokushin of Hokusai's death

北斎の娘が、北斎が亡くなったことを北斎の弟子たちに知らせた手紙。世界に1点しか残っていない、とても貴重な手紙です。



北斎の横顔

これは北斎が手紙の中にえがいた、自分自身の似顔絵です。手紙には、自分の顔のとくちょうについて、「目が小さくて、鼻が大きく、白髪がモジャモジャ」と説明しています。北斎ってこんな顔をしていたのですね。





なが た せい じ
永田生慈さん
Nagata Seiji

北斎についての本をたくさん書き、
北斎の研究者として世界的に知られています。



世界中で人気のある「北斎」とはどのような画家
だったか、お分かりいただけましたか？

さて、ではどうして、島根県がこんなにもたくさん
の北斎の作品を持っているのか、不思議ですよね。
実は島根県津和野町の出身で、長年にわたり北斎を
研究し作品を集めた、永田生慈さん(1951-2018)
が、北斎の作品や資料・2,000点以上を、故郷の島
根県に寄付してくださったからなのです。

永田さんが北斎に興味をもったのは、小学生の時。
たまたま古本屋で北斎がえがいた本を見つけた

のがきっかけでした。高校生のころから作品を集めるようになり、
北斎の研究者になることを目指
したそうです。永田さんは一生夢
中になれるものと、小学生の時
に出会ったのですね。

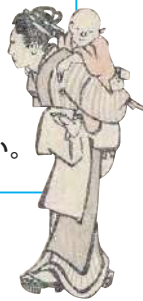
『画本早引』 Picture book of quick references
永田さんが小学生の時に古本屋で見つけた北斎の作品。

This introduction thus offers a little insight into the career of the world-famous artist, Katsushika Hokusai.

But why does Shimane Prefecture have such a large collection of his work? The answer is that over 2000 Hokusai works and items of archival material were actually donated to the prefecture by Nagata Seiji (1951-2018), a native of the Shimane town of Tsuwano who studied Hokusai and collected his works over several decades.

Nagata first became interested in Hokusai as a child when he found a book illustrated by the artist in a second-hand bookshop. He began collecting Hokusai while still in high school, and apparently dreamed of being a Hokusai scholar. Thus, while still of elementary school age, Nagata encountered what was to become a lifelong passion.

永田さんが寄付してくださった作品や資料は、
今後、島根県立美術館(松江)と
島根県立石見美術館(益田)でしか
見ることはできません。
この世界的にも貴重なコレクションを、
郷土の県立美術館でぜひお楽しみください。



※このガイドにある作品は全て島根県が所蔵しています
(島根県立美術館が保管)

発行：島根県

島根県立美術館 Shimane Art Museum

〒690-0049 島根県松江市袖師町1-5 TEL: 0852-55-4700(代表)
<https://www.shimane-art-museum.jp>

島根県立石見美術館 Iwami Art Museum

〒698-0022 島根県益田市有明町5-15 TEL: 0856-31-1860(代表)
<http://www.grandtoit.jp>

このガイドは「ふるさと島根寄付金」を活用して作成しました。

表紙: 『肉筆画帖』(部分) Cover: The album of brush paintings